

# 保育闘争委員会ニュース

## 公的保育を守り拡充させよう

2023年  
5月29日(月)  
第180号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会

Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957

honbu@tokyo-jichiroren.org

しばらくぶりになりました。各地の取り組みから

## 各地で4年ぶりの対面開催～新人歓迎の取り組み～

### <新人歓迎の取り組み 世田谷区職労>

コロナ禍では、Zoomを使ったオンライン形式で行っていた新入職員歓迎会。今年は4年ぶりに対面で開催しました。

### 以前のようにとはいかないけれど

コロナの感染状況が一定落ち着きを見せ始めたところで、久しぶりに対面での開催としたのですが、なにせ4年ぶりとなるため、準備に何が必要か忘れていたことが多く、さらに庁舎建替による引っ越しのドタバタで歓迎会の物品を廃棄してしまっていたりなどなど、歓迎会を担当した執行委員は随分と苦労しながら当日を迎えました。

会の内容は、以前のようにとはいかないこともありましたが、かわいくて美味しいものをと、担当者が試食までしてお菓子を用意したり、何か思い出に残るものをと、少し立派なボールペンをプレゼントにしたりと、初めて新入職員が保育園分会に出会う場を、できるだけあたたかいものにしようと準備をすすめました。

### 恒例の企画・新しい企画

新歓には恒例のゲーム企画があり、対面復活に伴いゲームも復活！10人ずつのグループに分かれてメンバー同士が協力する必要がある、かつ簡単で自然と仲よくなれるゲームです。人数が足りない時には来賓の区職労役員にも入ってもらいます。

区職労からは、書記長に「組合の役割を加入率が当局に勝手をさせない力になっている」という視点から話をしてもらいました。

また、保育課からも課長と副参事、係長4名計

6名が来賓として出席しました。若手職員の退職が増えている現状に、課として組合と協力して、若手を支えていこうという姿勢と受けとめました。

分会は、労働条件の改善なくして退職や病欠の根本的な改善・解消はないと引き続き訴えていきたいと思います。

今回、新しい企画は、歓迎のピアノ演奏です。2つの園から3名の組合員が参加してくれ、♪愛を込めて花束を♪や、連弾で♪やってみよう♪などを演奏してくれました。

### 世田谷版「保育を楽しもう会」を宣伝

歓迎会への新入職員の参加は39名。各園の職場委員を通じて、新入職員の当番に配慮してもらえよう事前に声をかけ、協力してもらいました。ほぼ全員の参加で最後は記念の集合写真も撮りました。



お土産の袋には、世田谷版「保育を楽しもう会」へのお誘いのチラシを入れて、会の内容を説明、宣伝しました。「楽しもう会」は、2ヶ月に一回

Zoomで行っている若手組合員対象の交流と学習の企画です。毎回10名弱の参加で、コロナ禍で、交流の機会が減った若手組合員がつながる場をと、昨年からはスタートしました

今年度の新入職員にも参加してもらえるよう今後も宣伝していきます。

### <新人歓迎の取り組み 文京区職労>

4年ぶりとなる新人歓迎会が対面で行われました。コロナ禍で実施できていなかった間の4年目までの職員を対象に開催され、参加者は42名でした。

### 労働組合はどういう組織か、 保育園分会のあゆみ

「働いていく中で困ったことなど人生のいろいろな場面で寄り添っていけるように、長く働いていく上で心と体の健康を守っていくために運動をしている。組合として組合の役員が頑張るのではなく、組合員一人ひとりの力が運動を盛り上げていくことが大切」と分会長から語られました。

また、保育園分会のあゆみを、今までに勝ち取ってきたもの、現実問題で直面しやすい事柄や、文京区として大きなポイントとなる民営化を阻止したとりくみについて、安武書記長が話しました。

その他、組合に入るとこんなメリットがという各種事業についての説明も。(各種お見舞金や映画のチケットなど)



後半はグループ交流。

テーマは「こんな保育園になったらいいな～私の理想の保育園～」

理想といわれると少し難しい印象ではありましたが、どのグループも短い時間の中で話が盛り上がりました！「休みがとりやすい」「どの時間帯でも十分に職員体制が整っている」といった労働環境のことから、「担任の数」「幼稚園と保育園の違い」などの疑問点。「笑顔あふれる」「自分の得意を生かせる」「信頼感のある」という毎日心がけて働いていることなど、様々な意見が上がり若手職員の熱い思いを感じました。最後に各グルー

プで上がった意見を発表しました。

### 分会長は

労働環境を作り上げていくことが身近な運動ですが、私たちは、地域住民・保護者の声を届ける役目も担っています。近年、保育を取り巻く事件が散見され、それに対する研修が実施されたり、多様なサービスや業務が増えています。しかし、保育を取り巻く環境は変わっていません。何も変わらない中で求められるものが高まり、保育者が窮屈になっていく一方です。だからこそ、「質の高い保育」を行っていくために必要なことを、当局に訴えていく必要があるのです。

そのためにも、一人ひとりがいろいろな活動に参加し、保育者として労働者としての専門性を高め、知識を深めること。おかしいことをおかしいとしっかりと伝えられる人間となるようになること。環境をよりよくしていくために声をあげ、運動に参加し組合員が協同していくべきだと締めました。

### 参加された方の感想です！

保育園分会には様々な歴史があることがわかり、よりよい働き方ができるようになってきているのだと学びました。グループワークで話合った「こうなったらいいな」がいつか叶ったらいいなと思いました。

コロナ禍で同期との交流が出来なかった中、一緒に話す機会が出来て嬉しかったです。お忙しい中、企画、運営をしてくださりありがとうございました。

